雑木林通信

NO.200 ／　2023.10.23
島熊山の雑木林を守る会
〒560-0001 豊中市北緑丘 3-1-30-101
TEL/FAX　06(6849)2435

長引く暑さ避けながら道すっきり

9月10日（晴）

雨のため中止が続いていた森の手入れ活動に参加しました。

特養横の階段を上り、クズの生い茂る展望区間を過ぎた所からマンションの横の道の手前あたりまでが私の担当。９月になったというのに好天に恵まれすぎてまるで真夏のよう。暑い日差しを避け、林の中の日陰の道を整備しました。

森の手入れ

先日の台風で樹の枝が多く落ちているのを藪の中に取り除き、所々クズが繁茂していたり、木の枝に絡みついて垂れ下がっているのを取り除いて歩きやすくしました。暑さを避け水分を補給しながらのんびり作業をさせてもらいました。

アラカシやクヌギのどんぐりが小さいながら付いているのを見つけ、少し秋を感じることができました。

作業後もポテンシャル高い会

作業後は楽しみにしていた交流会＝写真５面に。ビールやおつまみまで用意していただき、皆さんの自己紹介や自慢話をいろいろ聞かせていただき、多彩なメンバーが集まるこの会のポテンシャルの高さを感じました。LINE の友達にも登録できたので、早く名前と顔が一致するよう頑張ります、・・・自信ないけど。

その後、モニ 1000 の調査に参加しました。ところがなんと想定よりも早く雨が降り始め、あっというまにずぶ濡れに。調査担当の土田泰子さん、傘もささずにずぶ濡れになって観察種を次々と言い当てていくのですが、私の方は記録紙が濡れないように記録していくので精一杯。ネムノキってマメ科でソラマメのような実が付くのを初めて知りました。　（北田 勝章）

10月８日（曇）

切り倒した後の作業も大変な竹伐採

暫く振りに活動に参加しました。先ず老人ホーム上の地すべり場所の葛を山口さんが、きれいに刈り取って頂いていたのを見学して集合場所の広場へ向かいました。

私にとって暫く振りの広場は、チガヤの原になり、草丈も高くなり、白い穂が出揃って、穂の波が揺れるのを見られるのも間もなくだろうと思われました。

枝葉絡まる竹　力合わせて引き倒す

18 人が参加。広場でラジオ体操の後、土田明さんからスズメ蜂が出るので注意がありました。蜂に刺されない為にも肌を露出しない服装で作業するようにとのことでした。易さんから、もし蜂に気づかずに近寄ってしまった場合は、そっと後ずさりするようにとのアドバイスがありました。

山に入り、２、３人でチームになり竹の伐採をしました。竹を切り、枝葉を落とし、一箇所にまとめます。まとめる時には枝葉の根方を揃えるように、また、まとめて積む時には枝葉を下に、上に幹を置いて抑えるようにとのことでした。

竹は切っても上の方で枝葉が絡まり、なかなか倒れず、皆さんと力を合わせて引き倒しました。

竹切りは初めてという方５人をはじめ皆さんで頑張って、28 本の竹を伐採しました。作業を終えて山の中で周りを見回すと、心なしか少しすっきりしたように思えました。

雨雲が迫って来るような空模様の中での解散となりました。　（元山 美千代）

清掃ハイキング

蝶に季節感じながらも、スズメバチに注意！

9月17日（晴）

ルリタテハ

まだまだ暑い気温32℃の中、16名の参加者により島熊山の清掃ハイキングが実施されました。いつもの通り二つのエリアに分かれて清掃が行われ、私は新御堂側を担当しました。タバコの吸い殻をいくつか回収しましたが、都心の吸い殻とは違い、フィルターの近くまでしっかりと吸われていたのが印象的でした。緑地との境界フェンス越しにワインの空き瓶を見つけたのですが、それを拾うためにはフェンスをよじ登らなければならず、筋力の衰えを痛感しながら回収しました。

その後、雑木林の枯れ枝拾いと通路を妨げる笹の伐採を行ったのですが、お二人がスズメバチに刺されるというアクシデントが発生。大事には至りませんでしたが、鬱蒼と笹が茂った木の幹はハチの巣があったりするので要注意です。１匹でも見つけたならば回避しましょう！　尾根に向かう坂道は笹で閉ざされており、通路が判らなくなっていたので今回は深入りするのをやめました。

この日回収したゴミは空き缶５本、空き瓶３本、ペットボトル４本と可燃ごみ/不燃ごみ各１袋、錆びた草刈り機の刃、靴、ポーチなどでした。

清掃のために下ばかり見て歩いていると、とてもハイキング気分にはなれませんが、千里緑地を少し広い視野で見上げてみると、ウラギンシジミが忙しく飛び交い、ホシミスジは優雅に滑空していました。足元にはヤマトシジミがチラチラ飛んでおり、よく見ると後翅にオレンジ色の紋があるツバメシジミも混ざっています。緑地内の集合場所付近には樹液が出る木があるためか、ルリタテハの姿も確認でき、島熊山の常連であるツマグロヒョウモンに加えて夏の蝶たちが大集合していました。よく考えれば、島熊山の自然（蝶相）で季節が感じられるのも、清掃ハイキングの醍醐味かもしれませんね。　　（成田　正則）

10月15日（晴）

つぼみのコウヤボウキ　由来教わる

外回りを担当。昨夜の雨でぬれて道に引っ付いた紙ゴミや吸い殻を、拾いながら歩きました。

山道に入ってコウヤボウキを見ると、まだつぼみです。今までならこの時期には花が咲いていた記憶があるんですが…。観察路北側のナンバンギセルも例年は９月10日ごろには開花するのに、今年は20日過ぎになったそうです。猛暑が長引いたことが影響したのでしょうか。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

かわいく たくましく島熊山デビュー

清掃ハイクにメンバーのお孫さん、里緒ちゃんが参加しました。お母さんとスウエーデンから里帰り中の３歳半、「雑木林を守る会」の緑のベストがお似合いです。

３人で西町の道路沿いに空き缶などを拾った後、豊寿荘前から山道へ。島熊山は初めてだそうですが、登り道もすたすた上がっていきます。栗を拾ったり踏んだりしながら、山道のごみを目ざとく見つけ、火ばさみで袋に入れていきます。お母さんは「ストックホルム近郊に住んでいますが、すぐ近くに森や湖があって自然の中を駆け回っているんです。９月にスウエーデン各地で行われたクリーンハイキングにも参加、小さい分よくゴミを見つけるんです」。

初めてのおばさん、おじさんに秋の花や木の実を教えてもらいながら観察路を踏破、階段下に拾った空き缶やペットボトル計８本を並べて終わりました。「日本を離れる前日に、ススキの穂などスウエーデンにはない秋を見つけられて良かったです」とお母さん。里緒ちゃんも島熊山にまた来てね。

コウヤボウキの名前由来にまつわる話を社さんから教えてもらいました。

「高野山では竹を栽培してタケノコを掘ったり、竹ぼうきを作って売ったりするなどお金を儲けることは禁止されていた。そこでコウヤボウキの枝を束ねてホウキ(箒)を作り、お仏壇の掃除をした」そうです。

作業終了後の報告では、竹切りは13本、クズ刈りは陥没地から観察道をさらに奥に進み、左手に道をつくって切り払ったとのことでした。

解散後、西川さんから聞いたオケラの花を見に河原さんらと尾根に上がりました。道端に**オケラの花２輪**、小さいですが夕陽を受け輝いています＝写真。取り付け道は、10月11日のナラ枯れ対策の林床整備として土田泰子さん、西川さんらが笹刈りや枝切りをしてくださったそうです。ありがとうございました。(小泉 昌子)

【集めたゴミ】缶14　ペットボトル6　可燃・不燃各１袋、空気入れ、イス、傘

お待たせの秋
ナンバンギセル

今年は9月10日の「森の手入れ」の日にも見られず気になっていました。27日のトンボ池調査で教えてもらい、ススキ群落からやや離れた場所で３、４輪の花を見つけて一安心。散歩の度に覗くという人も。今季は少な目でも、「おもい草」の名にふさわしい色あいと姿が魅力のようです。

(9月30日撮影)

トンボ池調査

調査 記録：土田 泰子

7月26日（晴）参加者５名　気温35℃、水温34℃
◇トンボ…ギンヤンマ♂、ショウジョウトンボ♂3以上、オオシオカラトンボ♂♀、シオカラトンボ♂、キイトトンボ♂多数、アオモンイトトンボ♂2
◇その他の昆虫…マツモムシ多数、アゲハチョウの仲間、シジミチョウの仲間、オンブバッタ、バッタの仲間、コオイムシの抜け殻
◇植物…セイヨウミヤコグサ開花、エゴノキの実多数
◇作業…ヒメガマの穂がもう出ていた。池の浅い部分の草を刈る。

8月23日（晴）参加者８人、気温32℃、水温32℃、
◇トンボ…ショウジョウトンボ♂1、キイトトンボ、アオイトトンボ、ギンヤンマ♂1、ヤンマ系ヤゴ１
◇その他の昆虫…マツモムシ、オンブバッタ、ショウリョウバッタ、ハネナガイナゴ多数

◇他の動物…トノサマガエル、オタマジャクシ、ミナミヌマエビ多数、
◇植物…セイヨウミヤコグサ、エゴノキの実多数、オオニシキソウなど
◇作業…池中央のヒメガマや周辺に伸びた草を刈る。

トンボの姿はやや少なく、バッタやイナゴなどの成虫が多くみられた。

9月27日（晴）参加者８人、気温30℃、水温28℃
◇トンボ…アオイトトンボ♂、ショウジョウトンボ
◇その他の昆虫…アゲハチョウ、キタキチョウ、セセリチョウの仲間、ツマグロヒョウモン
◇他の動物…トノサマガエル、ミナミヌマエビ
◇植物…コナギ、ボントクタデ、アレチヌスビトハギ、アメリカセンダングサ、ツユクサ、スゲの仲間、アブラガヤ、ミヤコグサなど
◇作業…ヒメガマは果穂はなくなっていたが、まだまだ伸びており５～６割刈る。

お彼岸過ぎても暑さ続き、**ショウジョウトンボ**＝写真左上＝が木柵や葉先で逆立ちするように止まっていた。オベリスクといって、熱い陽射しが体に当たる面積を最小にする姿勢とか。**アオイトトンボ**が多く飛び、**連結産卵**＝写真右上＝の姿が見られた。例年９月になると登場する赤トンボ系のリスアカネやコノシメトンボは見られなかった。